

小倉駅新幹線口コンベンション施設 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年 8月 3日(金) 10:00~12:00
平成30年10月12日(金) 10:00~12:00
- 2 場 所 北九州市産業経済局観光にぎわい部内特別会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 大谷構成員、大原構成員、齊藤構成員、南構成員
(事務局) 産業経済局観光にぎわい部長、MICE推進課長、
MICE戦略担当係長、係員

4 会議内容

第1回

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 条件付き公募方式採用の理由等について事務局より説明。質疑応答。
 - (構成員) 平成27年に国から選定されたグローバルMICE強化都市事業について教えてほしい。
 - (事務局) 平成25年度にグローバルMICE都市事業の公募があり、東京や横浜などの7都市が選定され、海外のMICE先進都市から専門家を派遣してもらいコンベンション誘致に係る事例紹介や実務研修を受けた。平成27年度に第二弾として国がグローバルMICE強化都市事業の公募があり、本市も応募し選定された。
 - (構成員) どのような成果があったのか。
 - (事務局) 主催者がMICEを開催する際に開催地に何を求めているのか考え、都市としてのプロモーション方法やブランドイメージを確立することから始めた。具体的には、本市を端的に表現するロゴマークやタグラインを作成し、プロモーション映像の作成を行った。加えて、主催者がパンフレットに欲しい情報を体系的に整理し、冊子も再構成する等、より誘致に繋がるようなアドバイスを受けた。
 - (構成員) 2年間の強化事業の直接的な支援、海外都市の取組みのレクチャーなどはコンベンション協会が受けて修得したということか。
 - (事務局) 実務を担当するコンベンション協会が中心となって議論をしたが、市も一緒にレクチャーを受け情報を共有している。
 - (構成員) コンベンション支援業務については、国際会議場や展示場で開催するものも対象となるのか。
 - (事務局) 今回の指定管理業務は、施設管理に併せてコンベンション支援をすることになっている。支援の対象は、会議場や展示場のみではなく、市内全域、大学や

ホテル等で行われるものも含まれている。

(構成員) コンベンション協会は色々な分野で活動しているが、組織や財務の健全性やガバナンスについて機能しているのか。

(事務局) 公益財団法人ということで3会計に分かれているが、合計すると毎年黒字を達成している。主な要因としては、指定管理業務を受けることによる市からの収入もあるが、利用料金制度を採用しているので、自ら稼がないとマイナスになってしまう制度である。その中で、近年は稼働率も良く、収入も上がっているということは、外因もあるが、団体として努力している結果だと考えている。

代表者は商工会議所会頭で市内企業の動向を知るうえで適任で、専務理事職は市OBが務めており、意思決定や市と歩調を合わせた取組みを行っている。

(構成員) 北九州市のMICEの取組みについて、他都市と比べてどのように感じるか。

(構成員) 主催者側への対応はしっかりしているという印象。実際評判としてもよく聞く。その辺りも実績となって表れていると理解している。アクセスの面からも福岡は人気があると思うが、市としてのブランディングとして、ものづくりや環境といった色がハッキリしていて、市としての戦略に沿うような取組みは評価できる。

(事務局) 学会にも多くの種類があって、やはり工学系や医学系を中心に関連のある学会を開催していただくよう誘致活動を行っており、主催者としても本市で開催して良かったと思ってもらえるよう、都市の魅力を磨いていきたい。

(構成員) 条件付き公募をするにあたり、例えば民間企業からの応募がある可能性はあるのか、また民間企業がすることによる弊害などはあるのか。

(事務局) 全国の都市の中には、民間企業をコンベンションビューローとしているところもある。しかし、本市の特性として西日本総合展示場本館はコンベンション協会が所有しており、指定管理をする2施設と併せて3施設で一体管理をすることで、国際会議や展示会をしている事例もある。本市には大きな箱はないが、複合的な利用をすることによって、他都市との競争ができることがある。また、維持管理コストの面からも個別に管理するよりも一体管理することのメリットが大きいと考えている。

(構成員) 民間企業と競合させることや管理者が別々であることによる機会損失があるということも、もっと強調させることも必要である。

○構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を記入し発表。

その後、構成員全員で意見交換。

(構成員) これまでの実績や市の政策との親和性を考えると妥当であると考えている。しかし、募集対象を限定することは慎重であるべきと考え、一体運営がもたらす北九州市のMICE誘致拡大の効果や個別運営により懸念される不利益を明確化する必要がある。

(構成員) 国際会議開催件数トップ10入りなどの実績や、3館一体管理によるスケー

ルメリットを考えて妥当であると考えている。北九州市ならではのターゲットを絞った学会の誘致等、市の取り組みと合っている。

(構成員) これまでの実績や、施設利用者との人脈は一朝一夕には構築できない財産であり強みである。今後もさらなる競争力を発揮してもらい、周辺施設やスタジアムなど新幹線口の集客アップも期待したい。

(構成員) 対象施設をこれまで管理運営を行っている団体は、継続的に公益性の高い取り組みを、諸団体と連携してMICE誘致の成果を上げるとともに、利用者からの高い満足度も実現していると考えられる。MICE誘致は北九州市の最重要課題の一つであり、その中核となる当該施設についても継続的な管理運営が望ましいと考えている。

全構成員、条件付き公募方式採用の妥当性は「有」という意見を受け、検討会を終了。

第2回

○指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明

○申請団体より提案内容のプレゼンテーション

○質疑応答

(構成員) 平成29年度に北九州市観光協会と合併したことで、MICE来場者が小倉駅新幹線口の3施設だけにとどまらず、市内各地に経済的な効果を生み出すことを期待するが、具体的な取り組みを考えているのか。

(申請団体) 来場者が商店街等へ足を運ぶための環境づくりに向けた地域の連携の提案の部分で、MICE来場者が小倉城口の商店街等に足を運んでもらうため、商店街や小倉中央商業連合会と連携し、MICE情報を提供する。また、観光事業部(旧北九州市観光協会)が管理する観光案内所においても、ウェルカムボード等の設置により、おもてなしの雰囲気づくりを小倉駅周辺で行うことを検討している。一方、展示場及び会議場でも、観光資源や商店街の活動を発信するとともに、本協会が事務局を務める小倉駅新幹線口地区振興連絡会等も活用し、新たな人の流れを作る取り組みを考えている。

(構成員) 安全対策事故発生時の対応について、提案内容は理解できるが、待機列の問題等事故の未然防止として、これまでよりさらに力を入れていきたい、こういう工夫をしたいという提案や考えがあれば教えてほしい。

(申請団体) イベントにおける待機列については、先日のTGCの際は、台風等の悪天候が予想され、待機場所として来場者の安全確保のため展示場に隣接する西日本総合展示場本館を無料開放した。その他、炎天下や雨天時の場合は、主催者に対して無料でテントの貸し出しを行っている。施設全体の資源を使い、お客様の安全に配慮した環境づくりに努めていきたい。また、施設内で来場者が迷うという問題が多い。誘導のためにデジタルサイネージを設置し情報提供しているが、今後より一層、利用者が安全に目的地に着くよう対応していく。

(構 成 員) 利用者満足度や口コミ評価が高いのは承知しているが、SNSで発信された情報や来場者の声を拾い上げて、主催者へフィードバックするような仕組みをつくることで、また、評価の向上につなげていくことができるのではないかと思う。

(申請団体) 全体のなかで共有化しながら少しずつでも改善していく方向で取り組んでおり、ブラッシュアップしていきたい。

(構 成 員) 受動喫煙対策について、国際会議の誘致や子どもを対象としたイベントで特に重要になると思うが、国際的には受動喫煙に対する見方は、我が国に比べ格段に厳しいという認識だが、提案や考えがあれば教えてほしい。

(申請団体) 基本的に敷地内完全禁煙は難しいので、国際会議場であれば、受動喫煙にならないよう、海側に面した一番奥に喫煙場所を設けている。全面的に禁止すると、違法的な喫煙が増えるので一箇所だけで喫煙するよう、主催者に厳しく指導している。展示場も同様に喫煙場所を完全に分離している。厳格な場所の指定と周知を徹底している。なお、電子タバコに関しては、今後対応していく。

(構 成 員) 国際会議については大規模な会議や学会の誘致に力を入れており、特に工学系や医学系を中心に営業している印象がある。国際会議の中でも、人文系・社会科学系等の比較的小規模な学会等にも誘致に取り組むのか。

(申請団体) 小規模の国際会議であっても、誘致件数を重ねることで国際会議都市としてのイメージアップにもつながり、プレゼンスも上げるものだと認識している。主催者である先生方のモチベーションを上げることが本協会の務めであると考えている。大小に関わらず、会議等の開催支援を今後も継続して取り組んでいきたい。

また、地域の企業や団体と一緒にイベントを作りあげていくことは大変重要であると考えている。

(構 成 員) 台風等でイベントが開催できない場合の対応はどのようにしているのか。

(申請団体) 基本的には不可抗力で中止等の場合は、いろいろな事情を勘案して、料金はとらない。主催者都合の場合は、料金をとるという基準で対応している。キャンセルが発生した場合は、そこから営業を始めて埋める場合もあるが、欠損になることもある。

○構成員全員で意見交換

(構成員) 小倉城口との連携について、北九州観光コンベンション協会だけでは解決できない部分もあるので、市の支援も必要であると考えている。

(構成員) コンベンション施設が駅に近いため、用事が済んだらそのまま帰ってしまうので、そこが逆にデメリットであると感じる。

(事務局) TGC終了後に、小倉城口へ向かう人もいたので、人の流れはないわけではない。小倉城口との連携強化を進めるにあたって、今年度初めて食のイベントをペDESTリアンデッキで開催する予定であったが、台風で中止となった。

市としてもにぎわいにつながるよう支援していく。

(構成員) 小倉駅から旦過市場へ導線を繋ぐことで、途中にある商店街や飲食店が目に入るようになる。旦過市場は観光資源として小倉が誇れるエリアだと思うので、うまく表現できたらいい。

(事務局) 学会の終了が通常18時頃で、旦過市場は夕方までに閉店する店舗が多い。小倉城口の商店街等に足が向くようきっかけは作っているが、その先の受け入れが難しいのが現状である。イベント情報等を提供することで、営業時間を延長するなど受け入れの態勢を作ってもらうよう期待している。現在の指定管理者である北九州観光コンベンション協会は、飲食情報を載せたマップを作って来場者に配布している。市としても、来場者が小倉城口へと足を運ぶよう取組んでまいりたい。

(構成員) 今まで、ユニークベニューではどのような取組みをしていたのか。

(事務局) 二年前に小倉城の5階展望室で一度行ったことはあるが、エレベーターがなかったため、人の移動や飲料等の運搬が困難であった。来年エレベーターが設置されることから、是非、学会等で小倉城を利用してもらいたい。その他、いのちのたび博物館や三井倶楽部でも実績がある。また、来秋、関門海峡ミュージアムもリニューアルオープンするので是非利用してもらいたい。

(構成員) MICEにおいて関門連携をすることは可能か。

(事務局) MICEは都市間競争であるが、関門という地域は全国的にも有名である。そのため、来場者にはアフターコンベンションとして下関も案内しており、関門連携は重要であると考えている。ただし、会議場所を分散して使用することは主催者側から見ても難しいのではないか。

(構成員) 近年、北九州観光コンベンション協会の自己資本比率は非常に高く、民間では考えられない。

(事務局) 観光事業部を除き、市から北九州観光コンベンション協会に補助金等は支出していない。指定管理をして、それ以外は自分たちの運営努力で利益を上げている。健全な状態であると考えている。

○意見交換を行った後、各構成員の審査結果を取りまとめ、検討会を終了した。

(構成員) 全項目について『適』と評価。総合的に十分よく練られた提案であり、着実な遂行が期待できる体制等も有しており、指定管理者として適格である。

(構成員) 全項目について『適』と評価。これまでの実績を踏まえ、管理運営体制及び計画は妥当と評価する。九州内に新たに新設されるMICE施設があるなかで、現状に満足せず、更に魅力あるコンベンション誘致に期待する。

(構成員) 全項目について『適』と評価。長年の経験と近年の目標達成の高さから見ても適正は有りとする。今後も周辺地域との連携を強化して、経済効果が上がるよう期待する。

(構成員) 全項目について『適』と評価。運営実績、利用者の評価の高さ、市の政策と

もリンクした形で運営計画がされており適正と考える。引き続き、利用者満足度の向上や利用促進に努めていただくことに期待する。なお、小倉駅周辺のにぎわいづくりに関して、観光協会との合併による効果を活かして、来場者のニーズも拾いながら施設運営を行っていただきたい。